



「地域全体でひとつの病院」として機能する 基幹の役割を果たす新しい病院。



1F外来の女性用多機能トイレ。オストメイトに配慮し、壁掛け大便器の周囲には背もたれ、跳ね上げ手すり、L型手すりなどが備えられている。また、おむつ交換台やベビーチェアも設置。万一の転倒時にも手の届きやすい位置にナースコールが設けられている。

新潟県魚沼地域では、医療の輪をつくり、地域完結型医療を行うための大規模な病院の再編が行われました。その中核としての責務を果たす新潟大学地域医療教育センター・魚沼基幹病院（以下、魚沼基幹病院と表記）が、2015年6月に開院。これまでは地域で十分に対応できなかった三次救急や高度医療を担い、地域医療の充実・高度化をはかるための環境が整えられました。さらには、魚沼地域の医師不足の解消に向けた取り組みとして、新潟大学医歯学総合病院と連携し、医療人を育成するための地域医療教育センターを併設しています。

医療人を育成する地域医療教育センターを設け、 地域における医療情報ネットワークも構築、運営。

現在、厚生労働省は、大規模病院への患者さんの集中を緩和し、医療機関の機能分化と連携を進める方針を打ち出しています。日頃の健康管理などは、かかりつけの診療所や病院が受け持ち、設備や体制の整った大規模な病院が、急患や専門性の高い医療を担当。魚沼地域では、この方針に沿った役割分担によって「医療の輪」を作り、限られた人員や設備を生かしています。また、新しい取り組みとして、魚沼基幹病院は新潟大学医歯学総合病院と連携。医師や看護師、特に総合診療医の育成・強化をはかるための地域医療教育センターを設け、優秀な人材の育成につとめます。一方で、地元の病院や医師会の代表者で構成されるNPOが、「うおぬま・米(まい)ねっと」という地域の医療情報ネットワークを構築し運営。病院、診療所、薬局などがICT技術を利用して診療情報を共有し、チームになって患者さんの治療を行うことができます。



地上9階建て。院内保育所も開設した。

新潟大学地域医療教育センター・ 魚沼基幹病院

- 竣工年月 / 2015年3月
- 所在地 / 新潟県南魚沼市浦佐4132番地
- 設置者 / 新潟県
- 運営者 / 一般財団法人新潟県地域医療推進機構
- 設計監理 / 株式会社山下設計
有限会社総合設備設計
- 延床面積 / 33,549.31㎡
- 病床数 / 454床



2Fから見下ろした1Fの中央受付・ロビー。



1Fの外来受付。ロビーに設けられた天然木のバーゴラが、温もりある癒しの空間を演出している。

それぞれの特徴を生かして 地域の医療機関が連携。

再編前の魚沼地域では県立病院や市立病院を中心に、地域の診療所と連携しながら地域医療に取り組んできました。しかし、救急時や高度医療の必要な患者さんが、長岡圏域の病院を利用するケースも少なくありませんでした。再編後は、魚沼地域内で魚沼基幹病院が三次救急と高度医療を担い、他の病院は初期救急や回復期・慢性期の医療を担います。

〔2015年6月からの公立病院再編一覧表〕

	~2015年5月31日	2015年6月1日~	2015年11月1日~	2016年4月~
魚沼基幹病院	地域全体の三次救急と高度医療	新設 病床数454床		
県立小出病院	病床数383床	→ 90床	魚沼市立小出病院	病床数134床
魚沼市立堀之内病院	病床数80床	→ 50床(療養病床) 2015年4月		
南魚沼市立ゆきぐに大和病院	病床数199床		病床数40床	
県立六日町病院	病床数199床	→ 20床	南魚沼市立六日町病院	南魚沼市民病院 病床数140床

Voice 院長先生からの声

医師不足の県・圏域であるという問題を解消し、この地域を支える力になりたいです。



魚沼基幹病院
病院長
内山聖さん

魚沼基幹病院構想の検討は、平成13年から始まりました。新潟県は全国で人口当たりの医師数が42番目という医師不足の県で、魚沼は特に県内7圏域で最も低く、全国平均の半分ほどのドクターしかいないんです。さらに、県立の小出病院や六日町病院は老朽化していました。そんな状況で、救命救急や高度医療の約2割は、他の圏域の力を借りるしかなく、地域完結型の医療ができていなかったんです。私が新潟大学の医学部長や病院長だった頃から、県の方々と、単に新しい病院を建てるだけ

では解決にならないとお話しし、その後、圏域の中で医療機関の役割分担と連携ができるのであればということ、病院長の職責を受けました。人材の獲得に奔走し、やっと全診療科の人材が揃ったのが昨年12月。なんとか開院にこぎ着けました。新しい医療モデルができたのは、地域の皆さまのご支援のおかげです。今は多くの患者さんが訪れ、ほぼ満床の状態が続き、この病院にすぐ搬送できたので生命をつないだ患者さんもいます。改めて、大きな必要性があったことを実感しています。

Voice 新潟県の方々からの声

病院の移設ではなく、ゼロから立ち上げる新設。さまざまな困難を乗り越えてきました。



新潟県福祉保健部
基幹病院整備室
室長補佐
佐藤浩二さん



新潟県福祉保健部
基幹病院整備室
主任
中川慶太さん



新潟県流域下水道事務所
施設課長
堀内収さん



新潟県土木部都市局営繕課
建築調整員
横山達也さん

魚沼基幹病院は、県が設置し、一般財団法人が運営する公設民営の病院です。病院の主な特色としては、新潟大学の地域医療教育センターを併設し、地域医療を担う総合診療医などの養成をめざしているほか、魚沼コホート研究の活動拠点となる魚沼臨床研究センターを設置し、大規模な臨床研究を行う環境を整備したことが挙げられます。これらの取り組みによって、地域医療の充実と質の向上に寄与し、将来に希望の持てる魅力ある地域づくりにも貢献できたと考えています。移設ではなく新設でゼロから病院を作ることは困難もありましたが、なんとか乗り越えてきました。今後も魚沼基幹病院をサポートしていきます。



女性用採尿トイレのサイン。見やすく分かりやすいように工夫されている。



2F女性用採尿トイレ。車いすが通れる通路幅を確保し、いちばん奥に車いす用のブースを設けている。



2F女性用採尿トイレ内の、奥に設けられた車いすトイレ。背もたれ、跳ね上げ手すり、波型手すりなどが設けられている。



2Fの女性用トイレ。コンセントカバーが設けられている。

患者さんのプライバシーに配慮した採尿トイレなどを設置。

外来では、使用目的に応じたトイレを各所に分散配置。採尿時のプライバシーと機能性に配慮し、独立したゆとりある広さの採尿トイレを設けています。また、病棟のトイレも患者さんの使いやすさ、清掃のしやすさなどを考慮しています。「トイレは病院という緊張する施設の中で唯一、緊張から解き放たれる空間かもしれません。自分が患者さんであることも忘れて、ふと自分に戻れる場所ではないでしょうか。ですからトイレが明るく開放感があり、気持ちのよい空間であることは、とても大切なことです。当院では大便器にコンパクトな壁掛けタイプを採用していることもあり、限られたスペースでもすっきりと広い空間に感じるのかもしれません(病院長・内山聖さん)」。

新しい病院ではさまざまな災害対策も施され、地域の潤沢な地下水を有効活用する「膜ろ過システム」の導入により、上水が断たれた場合にも対応。さらには貯留槽や冷水槽の確保によって、およそ7日間の排水を貯留することができます。



病棟の個室に設けられた8角形のトイレ・シャワーユニット。斜めの壁面を利用して手洗器が設けられている。

将来的なレイアウト変更も考慮し、4床室の一部を二重床に。

将来的な対応として、4床室を個室に変更する可能性もあるため、床スラブを250mm下げ、鋼製床下地を施工。水まわりの配管の問題を解消し、改修する場合には下階への影響が出ないようにしています。設計当初は、実際の運営者との打ち合わせができない状況だったため、さまざまな利用のしかたを想定した設計がなされました。



個室にはさまざまなタイプがあり、シャワーを設けずトイレだけにして生活空間を広げた部屋もある。



病棟の特別室には、浴槽やトイレなどが設けられている。

Voice 看護部長さんからの声

清掃しやすいようにコンセントカバーにも配慮しました。



魚沼基幹病院
看護部長
渡辺礼子さん

設計がある程度できていた中で、さらに患者さんにとってプラスになることを要望してきました。高齢の方が多く、広さや分かりやすさを確保することなどを重点的に考えましたね。ただしスペースには限りがありますから、広げられない部分は逆に余計なものを削って、すっきりとシンプル・イズ・ベストにするという考え方でした。1・2Fのサインはできるだけ表示を大きくし、見やすいものに。水まわりは掃除がしやすいように、露出している配管やコンセントに汚物などが付着しないよう、コンセントカバーを設置してもらいました。

Voice 主任看護師さんからの声

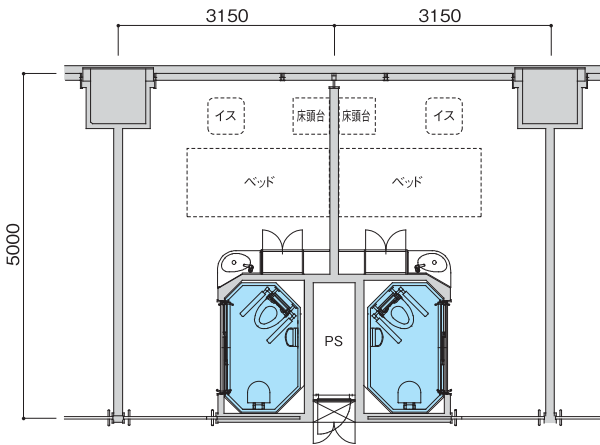
汚物処理の動線が短くなり、助かっています。



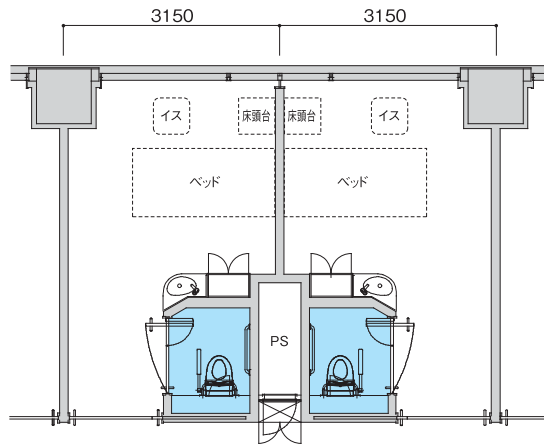
魚沼基幹病院
看護部 主任
帖佐留美子さん

トイレの大便器が壁掛けタイプなので、車いすの足置きがぶつからず、介助するのに向きを変えやすいので、とても使いやすいと感じます。清掃のモップも入りやすいですね。それに照明、水栓、水石けんなどが非接触のセンサー式になっているのは、感染対策の上で良いことだと思います。汚物処理室が1フロアに2ヵ所設けられていますから、汚物処理の動線が短くなり、効率的に動けるので助かっています。

【病棟 トイレ・シャワーユニット付き個室】



【病棟 トイレ付き個室】



個室・4床室およびトイレ・病室前廊下はモデルルームを製作し、使い勝手などの検証を行った。看護部からの要望により、個室はシャワーの有無やベッド脇ストレッチャー横付けスペースの有無など、入院患者の状況により使い分けができるようタイプ分けを行った。

尿流量測定装置を病棟の5～7Fに導入。測定の負荷を軽減し蓄尿問題の対策にも。

病棟の5～7Fには、用を足すだけで尿流量や尿量を測定できる大便器を導入しました。

「尿流量測定装置は、実際に使用されている病院まで見学に行き、とても良いものだ実感し導入しました。蓄尿の問題は、感染対策とともに大切に考えるべきことだと思います（看護部長・渡辺礼子さん）。患者さんや看護師が尿に触れないことにより、院内感染の対策としても力を発揮しています。



尿流量測定装置付きのトイレが、病棟の5～7Fに設けられている。



背もたれ付きアームレストなどを備えた病棟の男女兼用トイレ。



病棟5～7Fに設けられた、広いスペースの尿流量測定装置付きトイレ。

Voice 感染対策室・主任看護師さんからの声

見やすさや、動作を考えた設備の位置が重要です。



魚沼基幹病院
医療安全管理室
感染対策室
目崎恵さん

感染対策上、とにかく床を空けておくこと、フラットな状態にして清掃しやすくすることが重要です。トイレの大便器は壁掛けタイプにしています。そして動線。例えば手洗いの位置も、人の動きを考えて、どこにあればいちばんきれいにして出ただけかを考えました。石けんやペーパータオルの位置も、まずはしっかりと見える場所にあることが大切です。

そして、取りやすさ。どちらの手で取るのか。そうした実際の動きをできるだけ考え、今後も継続して改善をはかりたいと思います。

Voice 設計担当の方からの声

魚沼の美しい景色を楽しめる計画にしました。



株式会社山下設計
東京本社 第1設計部
副部長/グループ長
柴田浩さん

病院周辺には魚沼の美しい自然・河川・水田・町並みが広がっています。このような借景ともいえる良好な周辺環境を設計に取り入れ、病室のベッドや外来待合など院内の随所から望むことができ、患者さんやスタッフの心が癒されるよう配慮しました。水まわりにおいて設計で配慮した点は、感染管理しやすい仕上げや設えに加え、使用する皆さんが使いやすい配置や短い動線、分かりやすいサイン計画などです。なお、設計は総合設備設計さん（機械設備担当）とのJVで行いました。